

広報 こじょうめ

発行所 秋田県五城目町夜野 編集課 電話(018876) 代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876) 2430番 一部 5円
郵便番号 018-117 毎月 1日15日発行

愛鐘のメロデー募集
間もなく完成する山村開発センターの屋上に、朝な夕なその時刻をお知らせするオルゴールが取付けられます。町民から文字どおり鐘の鳴る丘として親しみ愛しまれるために、次によりそのメロデーを募集しますので、ご応募ください。締切日は十月三十一日。

一、応募要領
官制はがきに希望曲を一曲、住所氏名、年令、性別、職業をご記入ください。

二、その他 同曲多数の場合は、抽選の上決定いたします。
三、あて先 五城目町夜野内 五城目町躍進二十年事務局

青い空に、白い雲、そしてすがすがしい空気が、秋特有の風景である。ところがここ五、六年前から、稲収穫の機械化が浸透するにつれて、稲わらを焼く煙が、気流にのって村や町をすべり包むようになった。ひどい時は列車を止め車をとめ、人々の目やのどまで犯すようになった。
このため秋田県では昨年、県公害防止条例の一部を改正して十月一日から十一月十日までの間は、稲わら焼きを禁止することになった。しかしそれ以後も稲わらを焼く行為は一向に減る様子がなく、条例の効果は煙にまかれていた現状である。そのために違反農家の氏名を公表することにしたり新聞紙上でもたびたびその行為に非難が集中している。
農家は他人の迷惑を考えないのか
それでは農家は他人の迷惑など考えていないのだろうか。何人かの人になぞねてみた。「他人に迷惑のかかっていることとはわかってはいる。しかし、「今のところ焼くことが最も努力のかけられない処理方法である。」有機質肥料として還元する考えはないのか。「稲わらは翌年の春まで完全に腐るこ



(写真は谷地中の佐藤進さんで、4、8年秋から実施している稲わらのすき込み作業である。このあと耕耘機で畦立てをして排水をはかり、翌年は窒素肥料を控日に施肥する。今年の収穫量は10アール当720キロ弱とか。)

現実的な対策のないまま 煙にまかれる 稲わら焼き禁止の効果

とはほとんどない。そのまま全部の稲わらをすき込んだ場合苗の活着時期に腐熟する過程で発酵するため、苗の育成が著しく遅れ、収穫に大きな影響がある。「稲わらをおつりめて促成堆肥などにすればどうですか。」「アールにまつり敷かれたわらくすを集める努力は、他人が机の上で考えるような生やさしいものではない。まして兼業農家などはそんなに手間をかけていたのでは、会社から首にされてしまう。」
現実的な対策がない
農家の人々は、他人に迷惑をかけていることも、有機質肥料化の必要性もすべて認識の上であったが、現実に農作業の過程でスムーズに受け入れられるような各種理論の決定打的なことも確かであった。わらくすを敷きつらす構造の機械におどらされている農家の頭をたさ続けたより、農業の技術開発や経営指導をする国、県の専門機関のS・Pがくつわを並べている。その責任で早急且つ強力に研究をすすめて、さわやかな秋をとりもどしてほしい。

祖母から聞かせてもらったことを思い出す。
五城目のシンボルになっている森山については、こんな話も聞いたことがある。森山と呼ばれる山は二つあって、その一つは馬場目にある森山(師山)、もう一つは五城目にある妹の森山であること。
しかし、妹の方がずっと美しく神としての人は五城目森山を守り神として信仰したこと。怒った馬場目森山は大きな石を力いっぱい五城目森山をめぐって投げつけた美しい妹の胸に傷をつけてやろうとしたが届かず、やさしさのあまり今日も泣き続けた涙が川となって今の馬場目川となつたという話である。また、五城目森山のふもとに落ちた石は、後に田んぼ作りの邪魔になるといって、十五人の若者が力を合わせぬるなま捨てたが、ふしぎなことに朝になってとひとりで元の所へ移っていたといわれ、以来人々は神の石としてこれをあがめ、今日不動の石として崇められているがそれであるという。民話の豊富な五城目町、子どもたちを育てる女城主の山河に、先人の奇きた素ほく愛情情や信仰といいたるのを感じさせ、現代の世相を反映して、とかく欠きながらも人間の豊かさや補ってや



子どもたちに伝承の民話を
五小校長 渡辺 俊雄



十一月に

五城目町躍進二十年記念式典

～全世帯を招待～

町議会九月定例会は、去る九月二十五日から三十日まで六日間にわたっておこなわれた。

提出された案件は、昭和四十九年度五城目町水道事業会計決算認定など外三件が提出され、原案どおり可決された。なおこのたびの補正予算額は、山村開発センターならびに体育館の補正が中心となり、総額一億五千四百九十九万六千円を計上し、既定予算額と合せて、二〇億六千七十一万五千円となっている。

▼町長の行政説明

議会開会の冒頭、加賀谷町長から六月定例会以後の報告と、行政説明があった。その中で、合併二十周年記念事業の目玉である山村開発センターならびに秋田周辺広域市町村圏五城目体育館等合同竣工式典に対する見解をあきらかにしたので、お知らせしたい。

それによると

- 一、この事業の工期は十月三十日となっている。
- 二、合同式典実施のための準備
- ①九月一日 庁内職員からなる合同式典実行委員会ならびに事務局を発足させてすすめている
- ②実施要綱(案)等、実行委員会で作案、事務局でその内容のもとにすすめている。
- ③式典の名称について
名称は、五城目町合併二十周年記念ならびに、山村開発センター秋田周辺広域市町村圏五城目体育館竣工合同式典と、その外

の呼称や、作文、絵画そしてこの町を象徴するシンボルカラーなど児童、生徒、町民並びに町出身者に広く呼びかけて募集する。

なお、山村開発センターの各部署の愛称は町の職員を対象に募集する。

▼提出案件の概要

昭和四十九年度五城目町水道事業会計決算認定

概要

収益的収入 四十二億六千九百九十二万三千円

収益的支出 三十二億二千三百七十五万三千円

当年度純利益 一億四千七百四十七万〇〇円

資本的収入 九千九百四十四万二千円

資本的支出 一億二千二百四十六万九千九百九十九円

差引不足額 一千三百二十四万九千九百九十九円

不足額の補てき 当年度損益勘定留保資金 二百九十四万二千二百九十九円

減積剰余金 二万二千円

建設改良積立金 二百五十万円

繰越利益剰余金処分額 三三三万六千九百九十九円

当年度利益剰余金処分額 七百二十五万七千四百一十四円

- ①但し、予定日の十二日にあわせるときに、センターや体育館の工事が複雑ならぬよう十分監督していく。
 - ②もし、そのような傾向があれば式典を延期しても立派なものを作りあげたい。
- 四、町民の参加について
- ①全町民参加という趣旨から、式典には、一戸一人の招待を考えている。
 - ②山村開発センターや体育館の建設場所を町民に親しく愛称される

前年度の黒字会計に引続き、本年度も黒字会計で、二四・四％の利益率を示している。

一般会計補正予算概要

山村開発センター

工事費 七百六十一万円

設計監理委託費 三四万七千円

備品費 四百七十九万二千円

その他 一〇〇千円

計 一千二百八十四万四千円

これにより本年度事業費は、二億二千三百二十万五千円となり、総事業費は、三億八千九百五十五万三千円となる。

この歳入については、

本年年度の歳入

補助金 三千五百六十九万八千八百九十九円

起債(見込) 九千八百万円

一般財 八千九百五十万二千円

計 二億二千三百二十万二千円

昭和四十九年度分と合せると三億八千九百五十五万三千円となる。

今回の補正事由は、消防法の改正に伴い、誘導灯の設置箇所を増加することと、浄化槽、オシロウタンクの不等沈下防止の杭打をした。また必要最少限の備品購入と、得点表示盤を球面式から電光式に設計を変更したために補正を必要としたものである。

▼一般質問の中から

質：大川地区にし尿処理場を建設する計画があると聞いているが地域の住民が絶対反対しても設置するの。このため大川地区の各種建設計画をとりやめることのないように。

町長：結論から言って絶対反対などには受け付けない。し尿処理場に対する受けとめ方は時代とともに変わってきている。

質：し尿処理場を建設することが、必ずしも不利益をもたらすという考え方は疑問があるし、もの考え方は、常に一定不変のものではない。お互いの理解が合意に達した場合、また達しようとした場合に実施していきたい。あまり大きな誤りはないように

質：富津内中と杉沢中の統合について、教育委員長(学校統合の経過と特質を説明したあと)

質：学校の統合にいろいろ条件があるので、教育委員会には予算権がないので、今までは町当局とよく話し合った上ですすめている。条件の中には、通学費の補助、スクーパス、通学費の待合室の建設などがあり、通学費の負担額は、小学校、中学校あわせて年間一千四百万円となっております。統合のための条件の負担が非常に大きい。四十九年度の統合で終了ではなく、教育委員会の考え方も変りはないが、富津内中学校、杉沢中学校の場合、冬期間における寄宿舎などの問題もあり、これについて考えなおしていることとする動きがある。

質：開発公社の運営について、開発公社の債務負担行為が三億円となっているが、ぼろ大な土地買付が町財政を圧迫しないか

町長：みなさんとともに、他の公社の実例を視察したが、本町の公社の場合先行取得量がそんなに過大なものとは思っていない。価格が適正であればもっと大きく町財政の圧迫というより、むしろ町事業を推進する方の功績が大きいのと思っている。

前年度の黒字会計に引続き、本年度も黒字会計で、二四・四％の利益率を示している。

一般会計補正予算概要

山村開発センター

工事費 七百六十一万円

設計監理委託費 三四万七千円

備品費 四百七十九万二千円

その他 一〇〇千円

計 一千二百八十四万四千円

これにより本年度事業費は、二億二千三百二十万五千円となり、総事業費は、三億八千九百五十五万三千円となる。

この歳入については、

本年年度の歳入

補助金 三千五百六十九万八千八百九十九円

起債(見込) 九千八百万円

一般財 八千九百五十万二千円

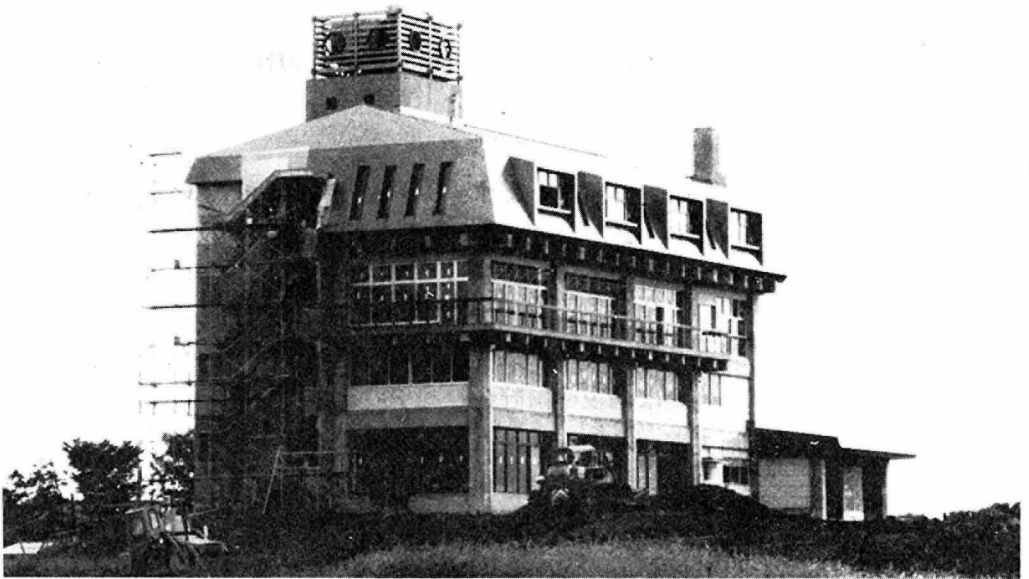
計 二億二千三百二十万二千円

昭和四十九年度分と合せると三億八千九百五十五万三千円となる。

今回の補正事由は、消防法の改正に伴い、誘導灯の設置箇所を増加することと、浄化槽、オシロウタンクの不等沈下防止の杭打をした。また必要最少限の備品購入と、得点表示盤を球面式から電光式に設計を変更したために補正を必要としたものである。

所税完納強調月間

期 間 昭和50年11月1日から
昭和50年11月30日まで



【写真 間もなく完成する山村開発センター】

- ◎ 住み良い町づくりはまず完納から。
- ◎ 納税貯蓄組合に全戸もれなく加入しましょう。

昭和50年11月1日

五 城 目 町
五城目町納税貯蓄組合連合会

町税完納強調月間実施要領

1、趣 旨

昭和49年度の町税収入状況は一般町税が総額2億4,899万5千円で収入割合98.45%(現年度分99.34%、過年度分44.27%)国民健康保険税は総額8,917万4千円で収入割合93.06%(現年度分96.92%、過年度分27.88%)となっており、年々収入状況は良くなっているが全体的にみた場合は良い方ではありません。(100%完納町村27町村有り)従って昭和50年度は100%完納を目指して納税の公平と早期完納を促進するため実施するものです。

2、期 間 昭和50年11月1日～昭和50年11月30日

3、実施事項

- ①納税組合単位に集合徴収を実施します。納税組合に加入している方はこの期間内に全員もれなく完納くださるようご協力をお願いします。なお集合徴収日等については別に組合長に連絡して決定いたします。
- ②納税組合に全戸加入されるよう推し進めます。納税組合に加入すると組合に対する補助、あるいは納税準備貯金の利子の割高等いろいろな特典がありますから、未加入者は是非加入されるようおすすめします。
- ③納税貯蓄連合会の協力を得て納税についての広報活動を行ないます。

(広報車、その他)

4、そ の 他

- ①町税を滞納しますと年利14.6%(日歩4銭)と云う高い延滞金がかかり、納税者にとって不利なばかりでなく納税の公平を確保するため状況によっては滞納処分が執行されます。そうなるとお互いに不愉快な思いをしなければなりませんので、過年度からの滞納のある方はよろしくご理解の上完納にご協力ください。
- ②町税に関することでわからないことやご不審の点は何時でも役場税務課にご相談ください。

不況対策の特別融資制度のご利用を!!

長期にわたる景気の低迷により生産売上が減退し、経営が苦るしく不安になっている中小企業に対し、当面必要な資金の融資を図る制度がもうけられました。

その内容は次のとおりです。希望者は、取扱金融機関にお申し込みください。

一、融資対象者

この制度による融資の対象者は原則として県内において一年以上事業を営む中小企業者

二、融資の制限

借入希望者が現在秋田県信用保証協会の求償債のあるもの、または、金融機関の取引停止中のものは融資の対象としない。

三、資金の使途

融資の対象になる資金は、運転資金とする。

四、融資の方針

①保証協会の保証付融資とする。

②取扱金融機関は、中小企業金融公庫秋田支店、商工組合中央金庫秋田支店、国民金融公庫秋田支店及び大館支店とする。

五、融資の条件

①融資限度、個人、法人二千万円 (協同組合等五千万円)

②融資期間 三年以内(借置六カ月以内)

③融資利率、取扱金融機関所定金利

④担保及び保証人 保証人一人以上、担保は必要に応じて徴す。

⑤償還方法 一括又は割賦

⑥保証料年率、一% (国民金融公庫による融資限度額は、一企業当り一千万円とする)

六、融資の手続

この制度により融資を申込みをしようとする者は、取扱金融機関所定の借入申込書に必要な書類を添えて当該金融機関又は保証協会に申込みこと。

七、取扱期間

昭和五十一年三月三十一日まで

北海道留萌教育事務所

社教主事七名来町

松橋教育長の町教育概況の説明

では、荒川五連青事務局長の青年会、活動の説明があり特に「森山」の自然を守る運動に北海道の方は興味を示したようである

意見交換にうつり、社会教育の進め方、特に生涯教育について、本町が三年前から進めている、テレビ利用による個人学習の奨励について話合ったが内容は青年教育に焦点を

秋晴れのもと運動会盛ん

8月の盆中行事も一段落したところで、各地区では住民運動会が盛んであった。去る9月7日、残暑も散い秋空のもとで、五城目地区は五小グラウンドで、馬場目地区は馬小グラウンド、そして富津内地区は秋田末広織工場のグラウンドでそれぞれおこなった。農村部では、収穫を前にした最後の行事とも言えるもので、各種目に声援がとび、テープをめざす選手らのデットヒートに喚声は湧いた。地区の住民運動会ならではの和やかさとはいえまじさがあった。

写真は、火災現場への一番乗りを競う婦人消防隊員 (富津内地区で)



また、結婚式のあり方は話題になり、北海道では一人当り料理千五百円で実施しているという新生活運動の定着が、留萌と本町では大きく異なるのではないかと町民の意識のあり方が話題となった。さら

り方も話題になり、北海道では一人当り料理千五百円で実施しているという新生活運動の定着が、留萌と本町では大きく異なるのではないかと町民の意識のあり方が話題となった。さら

出稼ぎのみなさんへの贈物

安全就労推進集会と慰安演芸会

日時 10月31日(金) 会場 五城目町農協会館

安全就労推進集会 午後1時~1時55分
激励会
出稼対策事業説明
慰安演芸会 午後2時10分~3時40分
民謡 日本一 佐々木常雄 一行
長谷川久子
民謡、歌謡曲、手おどり

これから出稼ぎに行こうとする方、あるいは、留守家族のみなさん、ご家族ともどもご参加ください。

◎当日午前10時から健康診断を行ないます(無料)

出稼先での罹病は心細いもので、留守家族も大変心配します。出稼ぎされる方も、ご家族もみんな健康診断を受けてお互いの健康を確認してください。

主催 五城目町 町
後援 五城目町農業協同組合

◎ 準決勝
役場 003001000
中央交通 110000000
教職員 010001010
教職員 010003030

◎ 決勝
役場 042003100
教職員 000000000

◎ 決 勝
最優秀選手賞 原田芳博(役)
敢闘賞 柴田正臣(教) 渡辺志
(中交) 鎌田悦郎(営)
打撃賞 伊藤直勝(役) 高山
重雄(教)

町内野球大会

役場チーム初優勝

去る九月十四日から三日間にわたって全町職場野球大会が、五城目第一中学校野球場を会場におこなわれました。参加十二チームで熱戦を展開したが、投打に若いパワーのある選手が揃っている役場チームが初優勝した。

五十年秋植造林補助金申請について

五城目森林組合では、秋植造林する組合員を対象に、杉苗等に補助金を交付するもので、次の内容により十一月十五日までに、森林組合あて補助金の申請をしてください。

- ① 申請出来る樹種 杉、松、桐
- ② 植栽対象面積 十アール(一反歩)以上で、十アール当りの植栽本数は、杉松で三百本以上、桐の場合は四十本以上十本となつていきます。
- ③ 申込期限 五十一年十一月十五日
- ④ 申込先 五城目森林組合(電話三三三五)
- ⑤ 申込要領 申請者の住所(番地まで)氏名植栽地番、杉伐跡、雑伐跡、原野の種類
- ⑥ その他 なお杉苗等組合を通さないでお求めになった場合、購入先の業者の証明書を添付してください。また杉苗等春植して、まだ補助金を受け付けておられない申請権がありますので、前記の要領で申請してください。

第十一回



五城目 間駅伝大会
上小阿仁

- 一、開催期日 十月二十六日(日)
- 二、コース 五城目〜上小阿仁間
- 三、参加資格

出場者は、同一市町村、同一職場の同好者によるチームを編成する。郡単位、同一チームのA、B(二チーム以上)の参加は認めない。

四、詳細については、五城目町公民館の方へお問い合わせください。

集募生徒の教室版画

- 一、参加対象及び人数
五城目町内の成人、青年男女一教室十五人
一日三時間で四回開講
- 二、申込先と締切日
申込締切日 十月二十日
申込先 五城目町公民館
- 三、経費 五千元
(用具代、材料代)
- 四、指導者 伊藤真久先生
- 五、日程 十月下旬開講

第十九回

秋田県森山登山競技会

- 十一月三日に開催
- 一、開催期日 十一月三日(月)
- 午前九時三十分まで受付
午前十時三十分第一回目スタート。以下二十分毎に出発。

- 岩城町 工藤 勝夫、典子、長女
- 大川三区 加藤 政二、トシ子、三男
- 養行 富士子、長女

誕生おめでとう

九、六、十、五までの届出分

- 広ヶ野 京野 浩之、50、9、8
- 希望ヶ丘 佐々木陽子、9、8
- 勝美 弘子、二男
- 次夫、典子、長女
- 老人ホームに寄せられた善意
- 九月五日 カステラ 十五箱 三万円相当
- 古川町 長栄堂 佐藤 栄治
- ザボンカンパニー
- 菓子店 五城目高等学校
- 家庭科 伊藤勇子外十四名
- 九月十二日 煙草
- ハイライト 二〇〇〇本
- 新生 二〇〇〇本
- エロキ 二〇〇〇本
- 秋田通六丁目 日本専売公社田支局
- 九月十三日 煙草
- チェリー 一〇〇〇本
- 灰皿 十個
- 五城目煙草販売協同組合
- 婦人部長菅原外十名
- 九月十三日 六十本
- 九月十五日 鯉 四匹
- 五城目町新町田チヨノ
- 五城目町釣り同好会
- 会長 金子好吉

おこやみ申しあげます

(九月に亡くなられた方)

- 二、場所
集合、受付、開会式、五城目第一中学校グラウンド
- 三、出発点
中学生個人 森山新設登山口
中学生一一般団体 岡個人、五城目第一中学校グラウンド
- 四、決勝点、森山山頂
- 五、申込期間 十月三十一日
- 六、申込先 五城目町公民館 (電話四一〇〇番)
- 小野台 石井ゆり子 9、13
恋地 正夫、ミヤ子、二女 9、16
坂田 茂子 二女 9、16
岡本 佐々木亮一 9、18
正男 聖子、長男 9、19
湯ノ又 沢田石智之 長男 9、19
正広 波子、長男 9、20
久保市 豪 9、20
勳 百合子、長男 9、20
- 京野松三郎 71 古川町 十一日 越高 義八 65 水沢 二日 石川 兼治 73 水沢 二六日 柳原 義成 66 一番町 三十日 加藤キヨノ 73 館町

11月 ごみ収集日

町名	11月				
	1回	2回	3回	4回	5回
希望ヶ丘	2	8	15	20	26
田ヶ野	2	8	15	20	26
広ヶ野	2	8	15	20	26
今ヶ野	2	8	15	20	26
御池	2	8	15	20	22
小川	2	8	15	20	22
新一	5	10	17	21	27
番川	5	10	17	21	27
占川	5	10	17	21	27
紀元	5	10	17	21	27
中川	5	10	17	21	27
館岩	5	10	17	21	27
城地	6	11	18	22	30
畑	6	11	18	22	30
新天	6	11	18	22	30
矢仲	1	7	12	19	25
長米	1	7	12	19	25
米沢	1	7	12	19	25
雀籠	1	7	12	19	25
昭辰	1	7	12	19	25
富内	13	29			
津内	13	29			
馬場	13	29			
大面	14	28			
馬場	14	28			
馬場	14	28			

- 1 廃棄物の袋、標、蓋のないうるものは取り集めさせていただきます。必ず直接投入してください。燃焼炉へ前もって廃棄物を選択してください。(電話3958)
- 2 廃棄物一箇の大きさをリボン程度に定めさせていただきます。
- 3 廃棄物収集所には収集当日午前8時までに、廃棄物収集の時の協力をお願いします。

生涯教育コンニャク問答 ⑧

社会教育関係 団体について

「青」おもしろいですね。教化団体ということばは、「父」社会教育団体といふことばを知っていますか。「青」知っていますよ。青年会も社会教育団体の一つになっていますよ。「父」グループサークルなどはどうなんですか。「父」ものによっては、社会教育団体となるでしょうね。「父」ものによっては、どういふことなんですか。「父」なんでもかんでも、集団であれば社会教育団体となるに限らないね。「青」青年会、婦人会、芸文協、体育協会などのほかどんな団体が認定されますか。「父」よするに社会教育を実施する団体の中で、教育的営みが配慮されているかどうかのポイントになるようだね。「青」青年会はどんな教育的営みをしていっているの。「父」研修会を実施していますよ。会の目的の一つに会員相互の教養を高めることだからね。青年会は事業もするが、修養団体ですよ。「父」社教法にも、政治、宗教活動、営利事業を行なう団体を除くことになっているね。「青」戦前は、社会教育団体のことを教化団体といっていたようだね。当然青年会も婦人会も、教化団体であり、国策遂行の一翼を担わせられたわけだね。「青」おもしろいですね。教化団体といふことばは、「父」社会教育といふことばは、昭和になつてから使われたことばで、その以前は通俗教育といふのだからね。通俗といふ教化といふ、おもしろいことばだね。「父」社会教育のことを通俗教育といふ時代があったのですね。青年団のU、B、先輩、の指導で伝統的な教えをうけたものだよ。「青」生涯教育なども社会教育団体が入り込んだものだよ。「青」正に教化指導をしたのです。先輩が後輩に伝統に引きつが先輩、正に教化教育ですね。「父」今のよ々なイカランな社会教育団体はなかつたわけですね。も踏襲という型でなされ、話し合つてよいいものをと考えなかつたわけだね。「青」現在五城目町では社会教育団体はいくつあるのですか。「父」社会教育関係団体は二、三十のものではないかな。その全部が町の援助をうけているとは限らないね。「父」別に町から認められなくともいいわけですね。「父」まあそうですね。しかし補助金を出すとすると、やはり認められることが前提になるね。(社教法第十三条第十三条にそのことを明記している)